

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 3 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503981		
法人名	有限会社 楓		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	広島県福山市加茂町下加茂1251-7 (電話) 084-972-5050		
自己評価作成日	平成27年1月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471503981-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471503981-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>◆環境整備に重点をおいています。9時と13時にはスタッフが一齐に草取り・窓ふき・車イス清掃などを日によって実施しております。また、定時に換気を行っております。 ◆毎月、外部から講師を招いたり、また研修に参加したりといった形で、各お客様の状態に合った移乗方法を学び、実施しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人グループの中で一番古い事業所で、今年で12年目を迎えられる施設である。利用者の尊厳とプライバシーを損ねない言葉遣いなど、利用者への対応は法人方針が決められ「利用者」ではなく「お客様」声掛けは全て「敬語」で接する事が徹底している。日常の生活に於いても、利用者の意向を最大限に沿い、起床時間、食事の時間、入浴時間、就寝時間等を無理強いすることなく、利用者に決定を委ね、その人に合った生活のリズムで過ごして頂けるように努めている。又、地域との繋がりも良く、運営推進会議には、町内会長・民生委員の方が参加され、町内会長より地域の介護に関する勉強会の講師を依頼されるなど、地域との繋がり深い。医療面に於いても、かかりつけ医や提携医と24時間対応が可能な連携が取れる体制が出来ている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「グループホーム楓は利用者様とご家族様そして地域の皆様との子々孫々のお付き合いを大切にします」という理念の下、その人らしい暮らしを目指しています。また、地域の皆様との交流をもつよう努めています。理念の提示と提唱も実施しています。	法人理念の下、管理者・職員は年間目標を、毎年9月の法人発表会で発表している。発表した目標の進捗は、毎月の会議で自己評価し、管理者と話し合いの場を持ち、法人理念の実践に向けての意識づけがされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご近所の散歩を日課にし、年に一度の秋祭りも恒例となり、ご案内させて頂いています。	町内会回覧により地域行事に参加され、秋祭り・とんどなどへ、積極的に利用者に参加されている。又、町内会長から「認知症及び介護技術」の町内勉強会の講師依頼を受け、近日に開催される運びとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの認知症の人の相談や困ったことなど、いつでもお受けしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホーム内での行事や研修、事故やひやりはっとの報告を行い、地域の人・ご家族・出席して下さった皆様のご意見を参考にして、サービス向上に取り組んでいます。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・家族など参加され、運営に関する報告及びヒヤリハット・事故報告について、参加者と意見交換がされている。	運営推進会議へ家族の参加が少ない。行事の際に家族会を開催されているが運営に関する意見交換があまり出来ない。今後は、利用者・家族の要望意見を、運営により反映するため、運営推進会議に利用者・家族が多数参加ができる取り組みを期待します。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困った時、わからない時などは、日常的に市の介護保険課や地域包括支援センターの方に相談しています。	市町担当者とは、制度上の不明点等で相談している。又、地域包括支援センター担当者へは、困難事例等で連絡を密にし、利用者の対応に向けてアドバイスを頂くなど、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>禁止事項について繰り返しミーティングや研修を行い、ベッドのサイドレールの使用も必要最低限にとどめています。各ユニットの玄関の施錠はありません。</p>	<p>「身体拘束」に関わる研修を法人内で行っている。法人で身体拘束・虐待等のマニュアルが出来ており、毎月の会議で確認等を行っている。家族が自宅で4本柵を使用され、入居時に家族より要望があったが、身体拘束にあたることを家族に説明し理解をいただき、ベットを低位にししたり、ベット下に衝撃吸収用のマットを置くなどで対応されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>マニュアルを作り、高齢者虐待についての研修を行い、意識を高め小さな変化も報告するようにしています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>資料の回覧や、必要に応じて関係者と協力し、活用できるようにしています。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、ご家族様の思いや不安をお聞きし、質問や疑問にお答えし、安心してご利用頂けるようにしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>二ヶ月に一度の運営推進会議にご家族に出席を依頼し、ご意見を伺うようにしています。</p>	<p>運営推進会議や家族会で意見交換する機会を作ったり、玄関に要望箱を設置している。又、家族が面会に来られた時に、利用者の日常の状態を説明し、お話をする機会を設け、運営に関する意見要望を収集して、運営に反映するよう努められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度の定例ミーティングの場で、意見を聞いています。 また、緊急ミーティングや緊急カンファレンスなどを必要に応じて開き、意見を聞く機会を設けています。</p>	<p>毎月の定例会議やカンファレンスの際に、職員から意見が引き出せるようにしている。又、管理者は、職員から提案、意見がいつでも相談できる職場の雰囲気づくりに配慮されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>社内検定を行い、スキルアップと給与等の改定を行っています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社内の伝達研修や勉強会を通じて、知識や技術の向上を図っています。また、社外の研修資料を回覧し、積極的に参加できるように働きかけています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>事業所同士の連絡会に参加し、交流の場をもっています。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>アセスメントをしっかりと行い、本人様の気持ちを十分にくみ取るようにしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご本人様・ご家族様と、別々に話をお聞きする機会を持ち、時間をかけて聴き受け止めています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>社内のケアマネージャーを中心に、地域包括支援センターや居宅ケアマネージャーの意見も伺い対応しています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>料理や掃除、花の水やりなどを職員と一緒にすることにより、日々の生活を共有しています。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人様の状態の変化に合わせ、ご家族も交え支援の方法を話し合い、ご本人を支えるより良い方法を検討しています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>会いたい人や、行ってみたい場所や家に帰りたい等の言動があった時等、ご家族の協力も頂いて可能な限りその思いに沿うようにしています。</p>	<p>近隣の利用者の方も多いため、友人、知人の面会も多い。又、会いたい人や行ってみたい場所を絶えずお聞きし、可能な限り実現して、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎月の行事やお出かけ、集団レクリエーションを実施するとともに、リビングでのおしゃべりの時間を積極的に作っていくことで、お客様同士が仲良くなる機会を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人・家族様から相談があった時には、常に対応できるようにしています。また、楓日より年に一度のお祭りの案内をお出ししています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活のリズムを本人様に決めていただいています。「お客様はどのようにしたいと言われているか」を合い言葉に、常に本人様の意向を確認しています。	利用者の思いや意向を把握するため、日常の会話や家族からの情報を基に意向を集約している。すべての利用者には、職員が本人になったつもりで記入していく「すっぽりシート」を活用し、情報収集して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様、ご家族様から今までの暮らしぶりやご様子を何度も聞き取り、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝のバイタル測定・表情等、いつもと違いはないか、本人様にも体調を伺い、異常があれば主治医に相談しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>定期的カンファレンスを行い、本人様になったつもりで「すっぽりシート」を活用し、本人様・家族様の意向を最大限に反映させ、現状に即した介護計画を作成しています。</p>	<p>定期的なモニタリングと、6ヵ月ごとに全職員でカンファレンスを行い、介護計画を立案し、利用者・家族・主治医・関係者と担当者会議を開催して、介護計画書を作成している。日頃より利用者・家族からの要望意見を集約して、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子や気づき・体調の変化等を記録し、申し送り、朝礼・昼礼を通じて、情報を共有しています。その記録をもとに、必要に応じてカンファレンスを行い、ケアの見直しにつなげています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人様・家族様の要望に沿えるよう現場の意見や社内のケアマネージャーに相談しながら、ホーム長の指示のもと個別の対応をしています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近所の方や民生委員、地区の方等に見守りをご協力頂き、何かあった時は連絡頂くようお願いしています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>診察にスタッフが立ち会うことにより、本人様とかかりつけ医との橋渡しをし、納得が得られる医療を受けるお手伝いをしています。</p>	<p>利用者・家族の意向を第一に、主治医を決定している。受診は基本的には家族をお願いしている。家族が受診される場合でも、出来る限り職員が同行し、主治医との連携が図れるよう努められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携医療機関をはじめ、ご本人様の主治医・看護師に相談しながら対応しています。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は普段のご様子を情報提供し、治療に活かしていただいています。また、病院・家族・かかりつけ医とも密に連絡をとっています。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期については、かかりつけ医も交えて話し合いを繰り返すことによって、本人様・ご家族様の思いを確認し、ケアの方針を決めています。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針について、利用者・家族に説明されている。重度化された場合には、利用者家族の意向を第一に考え、家族・かかりつけ医又は、提携医・訪問看護など関係機関と連携を密に図り、支援に取り組んでいる。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成し、それを元に対応しています。また、消防隊員による救急救命講習を年に1回実施しています。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練を実施しています。その際にはご近所の方にも参加していただいています。	年2回、火災避難訓練を実施され、その内1回は消防署の指導を受け、避難経路及び避難方法について、相談し指導を受けている。地域の住民の方へ避難訓練の協力をお願いし、利用者の避難後の見守りの役割をして頂くなど、地域連携が図られている。	火災避難訓練は実施されているが、夜間の避難訓練が実施されていない。夜間想定又は実際に夜間に訓練を実施することで、想定外の問題点の把握することが出来るため、今後更なる訓練精度を上げるための取組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	定期的な社内研修において接遇・言葉かけの教育に努めています。また、月に一度のミーティングにおいても、確認しあっています。	法人として「利用者」と呼ばず「お客様」と呼ぶことが徹底されている。利用者への対応についても「敬語」を基本として、利用者の尊厳やプライバシーを損ねない声掛け対応をされている。定期的な研修及び会議で、気づきや振り返りなど、出来る取り組みがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや希望を言って頂きやすい雰囲気作りと環境作り、声かけを実施し、本人様がどうしたいかを確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフの都合を優先するのではなく、本人様の思いや希望をお聞きし、理解したうえで行動するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの服を本人様に選んで頂いたり、理容師に希望する髪型を相談できるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	じゃがいもや玉ねぎの皮むき・食器やお盆拭き等、お一人おひとりに合わせて一緒に取り組んでいます。	利用者へ無理強いすることなく声掛けで手伝い頂ける方に、食事の下準備やお盆拭きなどをして頂いている。利用者の好みをお聴きし、例えば「ユーホーデー」（カップめんの日）を設けて、利用者的好评を頂いたり、利用者喜んで頂けるように取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>かかりつけ医とも相談し，一人ひとりに合わせたメニューや盛り付けで、食事を提供し、必要に応じて食事量・水分量を記録しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>ご自分で出来る方は見守りをし、足りないところはスタッフでお手伝いをしています。必要に応じて歯科医師を利用しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>安易におむつに頼らず、できるだけトイレでの排泄を心がけています。トイレでの介助法も、本人様の持つ力を最大限に引き出す介助法を行っています。</p>	<p>利用者の尊厳を守るため、法人として幼児が使う「オムツ」とは呼ばず、法人の事業所では「オープンパンツ」と呼び名が統一されている。オープンパンツの利用者に対して、身体状況・尿意があるかどうかを判断して、出来る限りオープンパンツを使用しない姿勢を職員は共有し支援されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>牛乳やヨーグルト・寒天等をメニューに取り入れ、便秘に効果のある体操やマッサージ等を行っています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>曜日は基本的に決めています，状況に応じて希望に沿った時間に入浴して頂けるように対応しています。</p>	<p>曜日や入浴時間は基本的に決めてはいるが、利用者の希望により臨機応変に対応している。浴槽のお湯は毎回入れ替え、利用者の誰もが一番湯に入れるようにされている。又、季節に応じて入浴剤を変え、温泉気分が入浴が楽しめる工夫もされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝・起床時間は、ご本人様の体調や希望・昼寝も含めて自由に選んで頂いています。お休み中の室温・湿度にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報をファイルにとじ、いつでも確認できるようにするとともに、薬の変更があった場合には、朝礼等を通じてスタッフに説明しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	調理や食器拭き、洗濯物たたみ、お花の水やり等をスタッフと行ったり、おでかけやカラオケ等、日々の暮らしの中にアクセントをつけるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ホームの周りを散歩したり、ドライブに出かけたり、ご家族様の来訪時スタッフと共にお出かけしたりしています。	散歩が日々の日課になっており、事業所の廻りを散歩されている。買物や季節に応じて花見や紅葉狩りに、ドライブで出掛けている。毎年秋には、利用者・家族(希望者)とバスを貸切、昨年はみろくの里や、せら温泉に出掛け、家族と協力しながら支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	スタッフと一緒に買い物に出かける場を設け、社会とのかかわりをもって頂くよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を書いて頂いたり、ご本人の要望に応じて、ご家族やご友人に電話をかけるお手伝いをさせて頂いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節に応じた花を飾り、ホールには写真やお客様の作品を展示しています。	共有スペース壁面には、利用者とスタッフと一緒に作成した、季節に応じた貼り絵や、塗り絵などが展示されている。又、毎月の生活の様子が分かる行事の写真が展示され、日頃の生活が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでお好きな席に座って頂いたり、ソファや和室、ウッドデッキ等で思い思いにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の使い慣れたものを持ってきて頂いています。一人ひとりの居室にそれぞれの個性が現れています。必要に応じて、スタッフと本人様とで好きなものを買に行っています。	居室への持ち込みは、特に禁止のものではなく、利用者・家族から馴染みの家具や日用品を持参頂いている。居室内は、日頃作られた作品や写真が貼られ、利用者が穏やかに過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれの居室の入り口には、名前を書いたプレートをつけています。トイレにはイラスト入りのプレートをつけています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム楓

作成日 平成27年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した避難訓練が実施されていない。	夜間を想定した避難訓練の実施。	避難訓練計画書を夜間を想定したもので作成し、消防署職員指導のもと、避難訓練を実施する。	6か月
2	4	運営推進会議に家族の参加が少ない。	運営推進会議への、家族参加の仕組みの変更。	家族会総会などを利用し、運営推進会議への家族の出席について検討を行う。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。